

「都市型雨力発電所」をつくろう

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校三年 木田夕菜
平成五年八月六日、鹿児島市を襲った集中豪雨はあつという間に市内中心部を覆った。死者四十八名を出す大惨事となった。この時の様子を父が話してくれた。

「確かに叩き付けるような雨が突然降り出してきて驚いたけれど、それよりも、市内を流れ出した水の勢いのすごさに驚いたよ。」
市内を流れる甲突川の両側には、団地が多い。

舗装化されたこれらの団地に降った雨は一気に団地を下り、谷間の川へと流れ込んだ。この災害で歴史的建造物である五大石橋も流失してしまった。まだ生まれていなかつた私もその時の様子を記録したビデオを何回か見たことがある。友達と買い物に行く街の中心街が水没している光景に衝撃を受けた。

この水害を教訓にして、鹿児島市では降った雨水を地下の貯水池に溜めておき、少しずつ送水できるような仕組みが整備されていっ

た。私の卒業した小学校も数年前に、校庭の地下に貯水池がつけられた。

私は考えた。この一旦牙をむくとたいへん恐ろしいこの雨水をもつと有効に利用できないか。あの石橋を押し流すほどの水量を役に立てることはできないものか。

三月十一日の震災後、日本では電力の確保について大きな問題となつてゐる。再生可能な自然エネルギーをもつと活用すべきとの声も少なくない。水を利用した発電といえば、

水力発電である。ただ、水力発電自体はクリーンエネルギーではあるものの、発電にはダムが必要でその為には、自然保護の見地から反対意見が多い。

では、既に開発された都市部の地下にある貯水池に水力発電施設をつくることはできないのだろうか。雨が常に降り続けるわけではないので、太陽光発電と同様に常時、安定した電力をつくり出すことはできなくても、都市部に降つた雨をそのまま下水に流してしま

うのではなく、小規模でも発電タービンを回
 すかとして雨力を活用するのだ。一つ一つの
 発電施設は小さくても、都市部の地下にたく
 さんの発電施設ができ、それを集めれば大き
 な電力を作り出せる。これならば、山間部の
 美しい自然を破壊することなく、都市部の防
 災も行いながら、電力不足を補い、環境にや
 さいい発電を行うことができるのではないか。
 そして発電に使った水は、道路に敷いたパ
 イプを使って、夏場ならば、ヒートアイラン
 ング現象をおさえるための打ち水として、冬場
 ならば、凍結した路面を溶かすために散水す
 る。
 天からもらった自然の恵みである雨を、同
 じく天からもらった美しい環境を守りながら、
 人々の大切な命も守っていく。建物の屋上に
 はソーラーパネルが並び、地下には、都市型
 雨水発電所をもつ、そんな環境未来型都市
 が誕生することを、私は期待したい。